

H26年度決算と財政見通し

平成27年8月28日
財政課

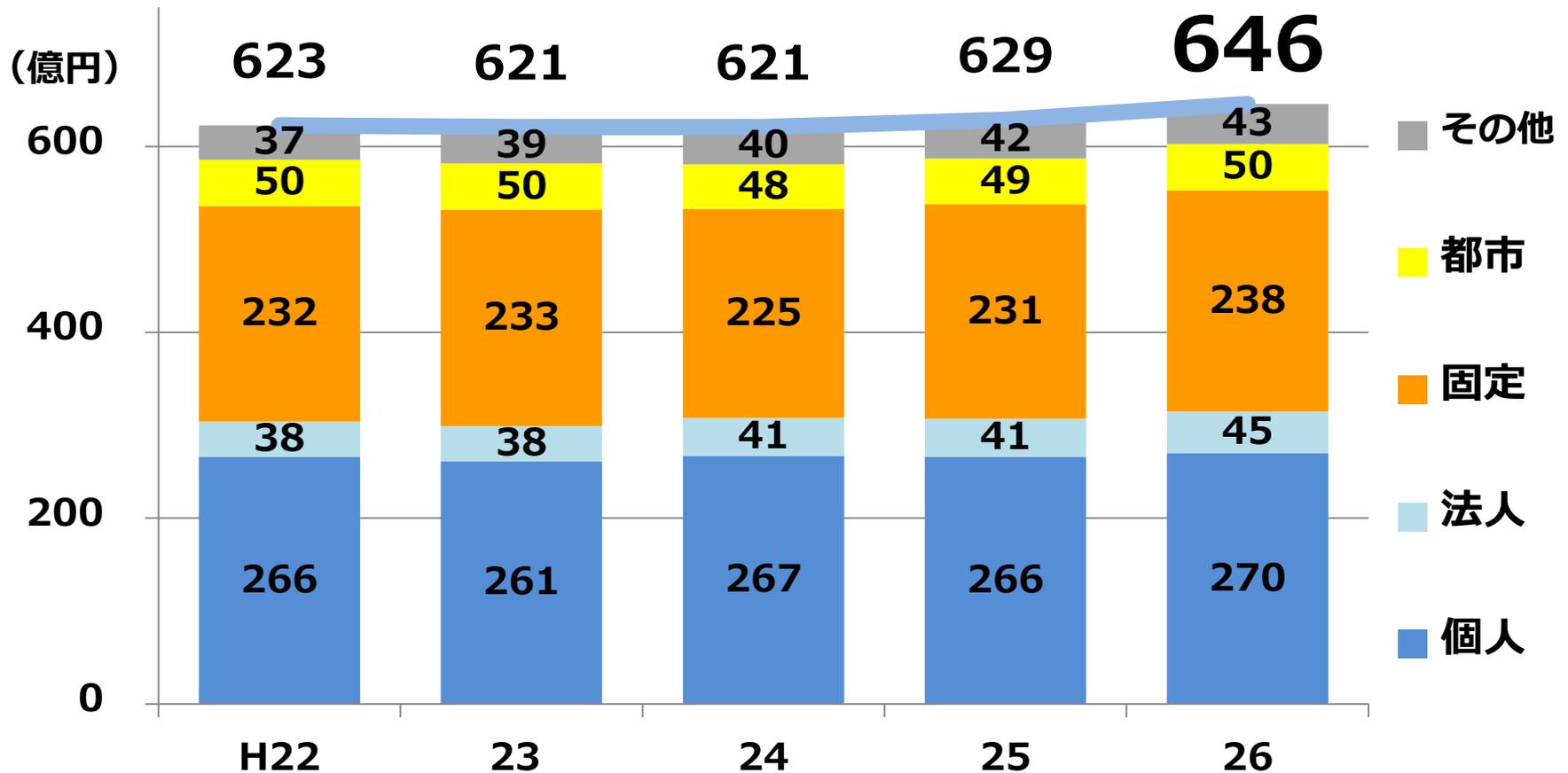
H26年度決算の概要

- **市税収入は2年連続で増加**
⇒景気の回復基調と人口の増加
- **扶助費，医療・介護等へ繰出金が大幅増**
⇒消費税率引上げに伴う社会保障の充実，高齢化の進展，子育て支援の充実
- **建設事業費と市債（借入金）が大幅増**
⇒文化会館の耐震改修，中学校体育館の建替え

歳入・歳出ともに高い伸び！ (H22年度以降最も高い伸び率)

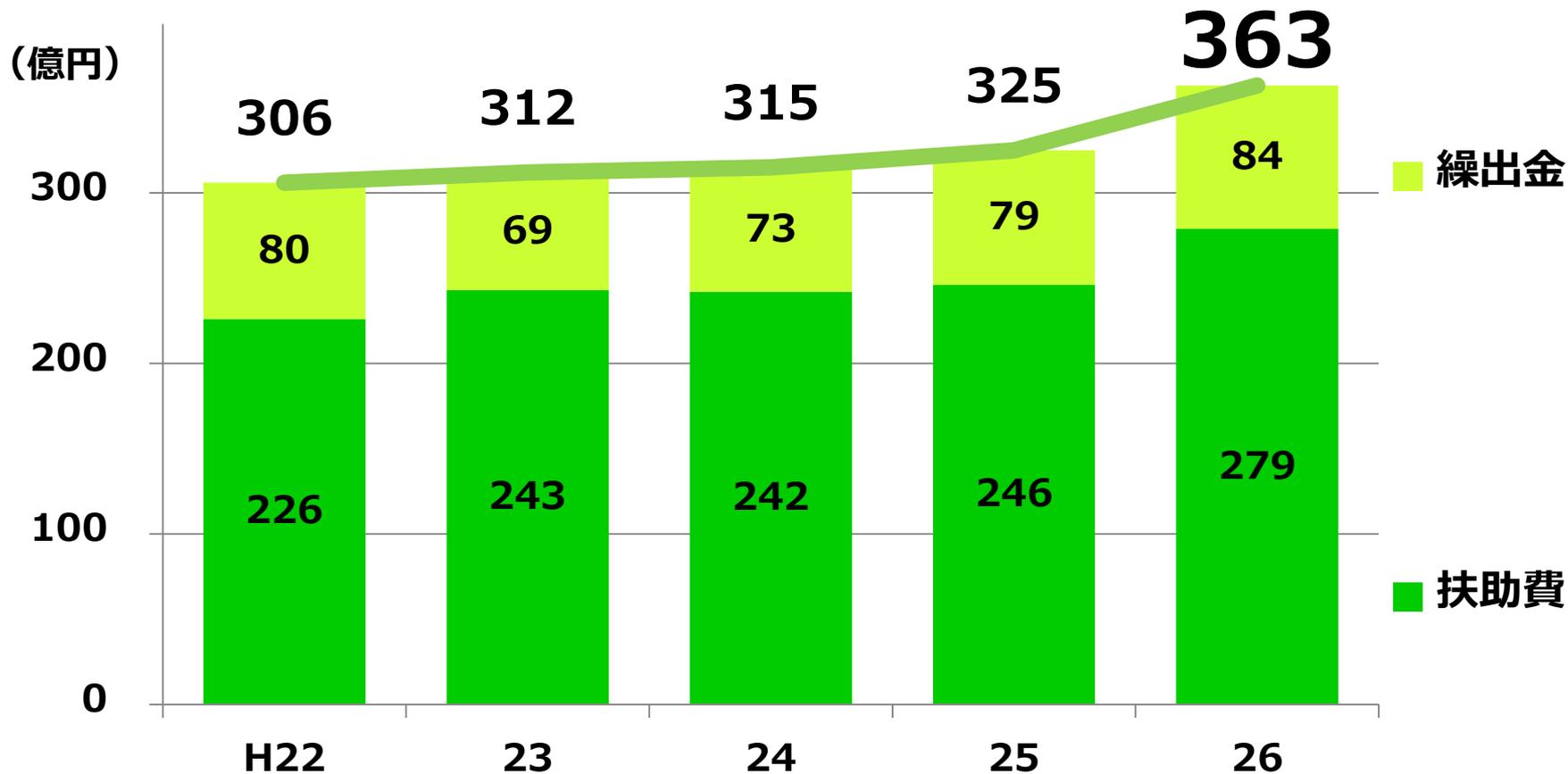
	H22	H23	H24	H25	H26	増減額	増減率
市税	623	621	621	629	<u>646</u>	<u>17</u>	<u>2.7</u>
市債	79	88	81	78	<u>87</u>	9	12.0
歳入総額	1,150	1,193	1,228	1,156	<u>1,206</u>	50	<u>4.3</u>
人件費	235	233	231	221	<u>225</u>	3	1.4
公債費	133	135	129	133	<u>128</u>	△5	△4.0
社会保障費	306	312	315	325	<u>363</u>	<u>38</u>	<u>11.7</u>
投資経費	126	134	119	102	<u>114</u>	<u>12</u>	<u>12.2</u>
歳出総額	1,096	1,112	1,150	1,096	<u>1,151</u>	55	<u>5.0</u>
差引	54	81	78	60	<u>55</u>		

市税収入は2年連続で増加！ (前年度比17億円増)



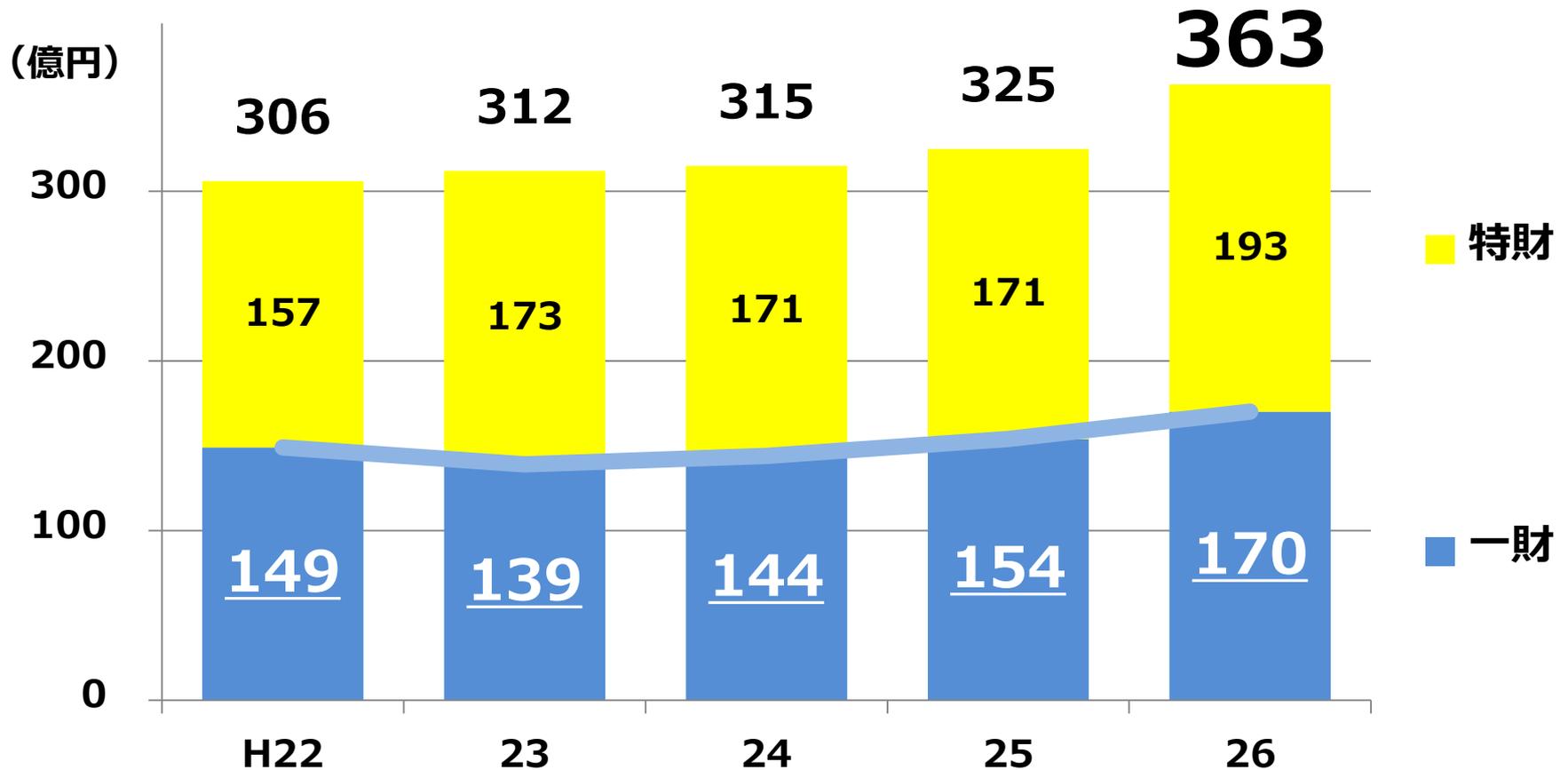
市税収入の推移

社会保障費は大幅増！ (前年度比38億円増，12%増)



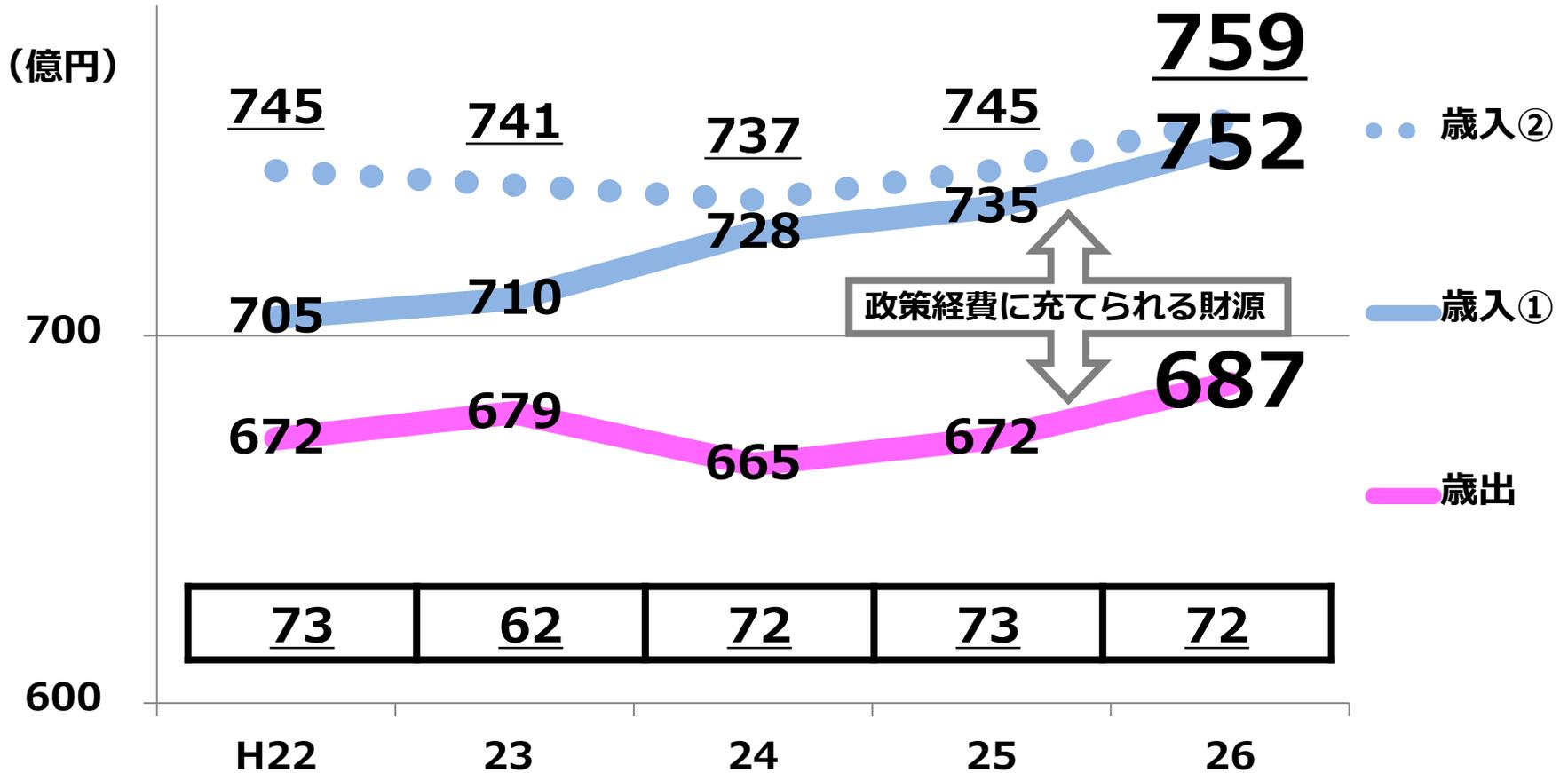
社会保障費 = 補助費 + 医療・介護等への繰出金

社会保障費の一般財源負担は… (前年度比16億円増, 10%増)



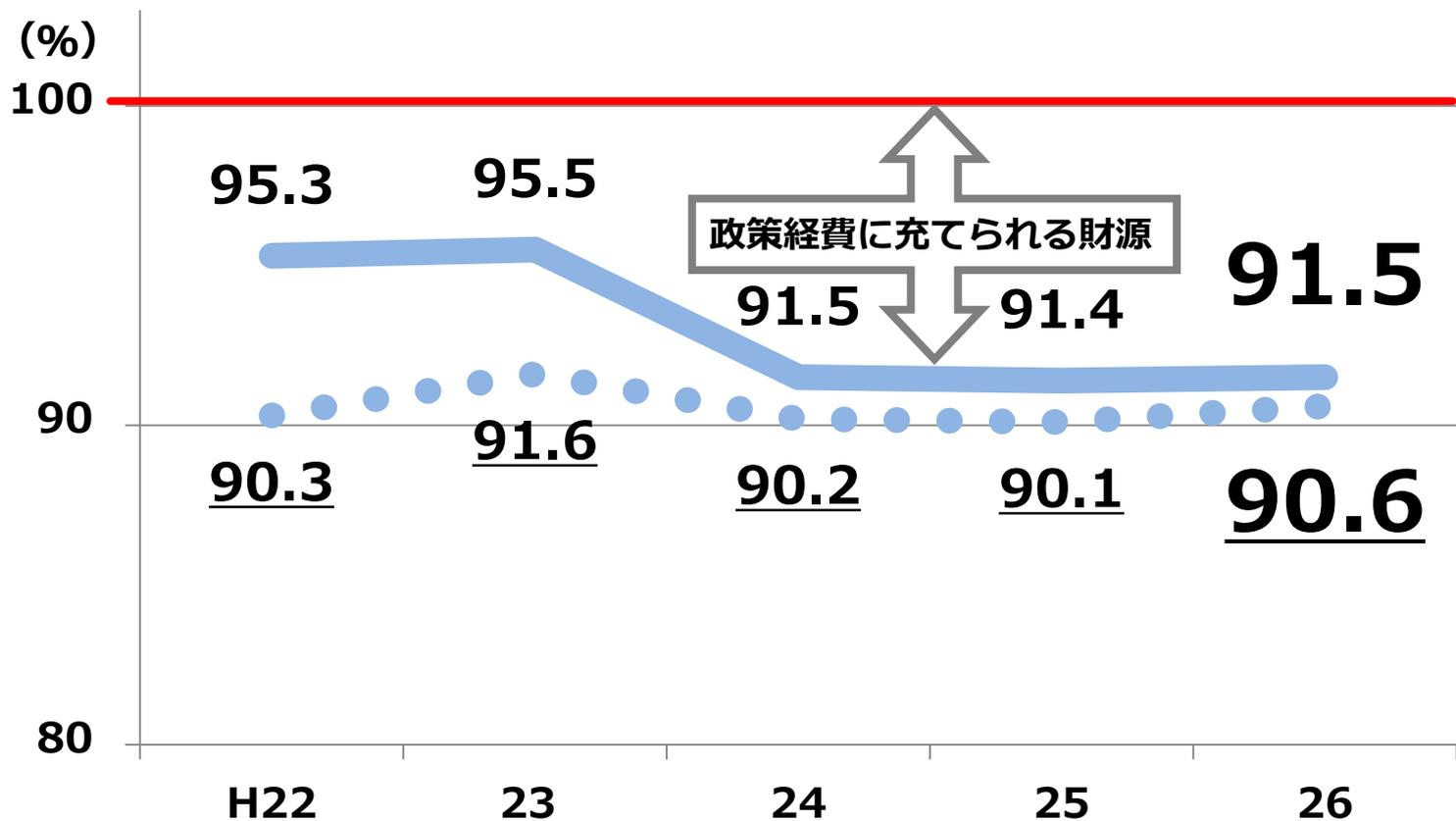
社会保障費 = 扶助費 + 医療・介護等への繰出金

経常的な収入・支出は増加傾向！ （自由に使えるお金は「横ばい」）



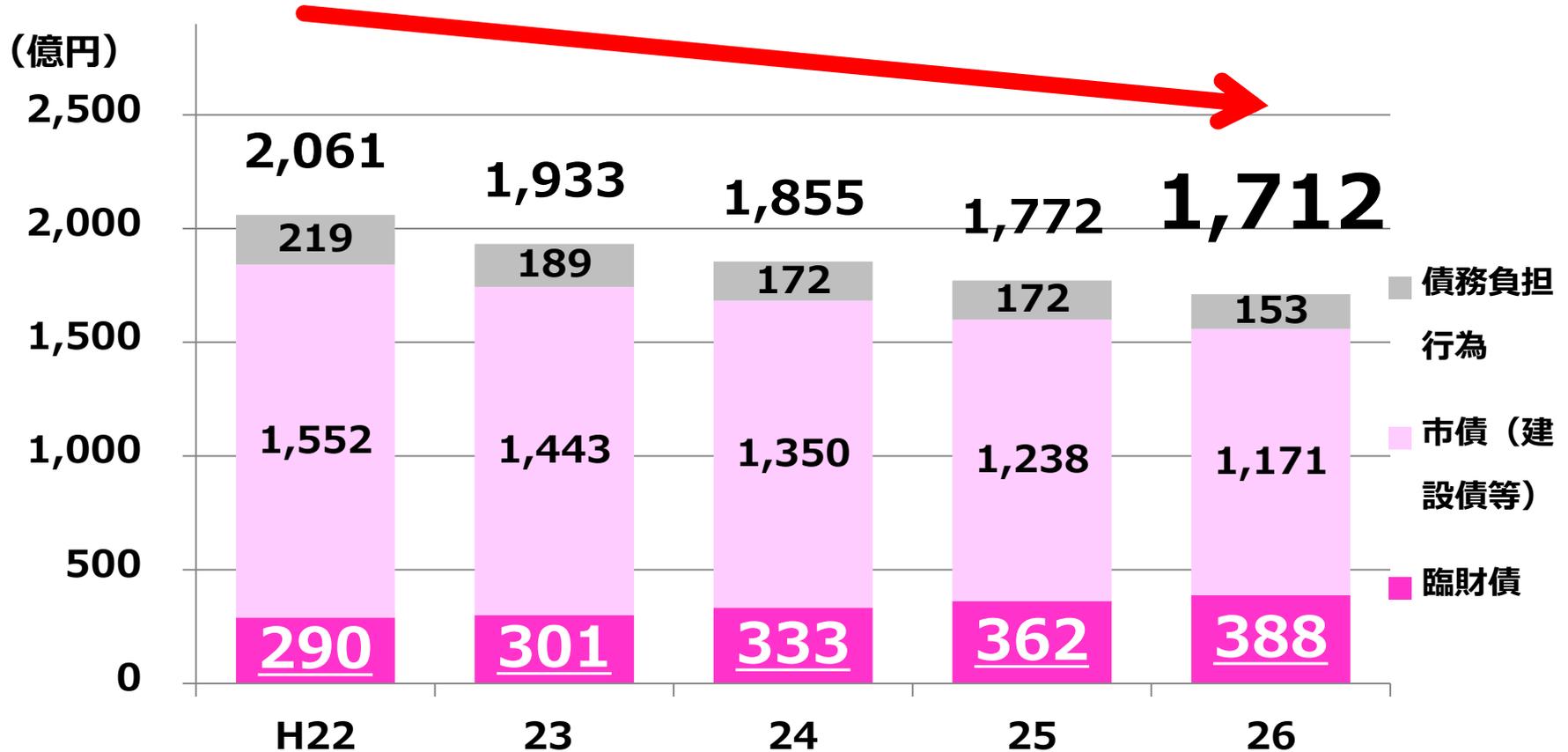
「・・・」は臨時財政対策債を満額発行した場合

経常収支比率は高い水準で推移！



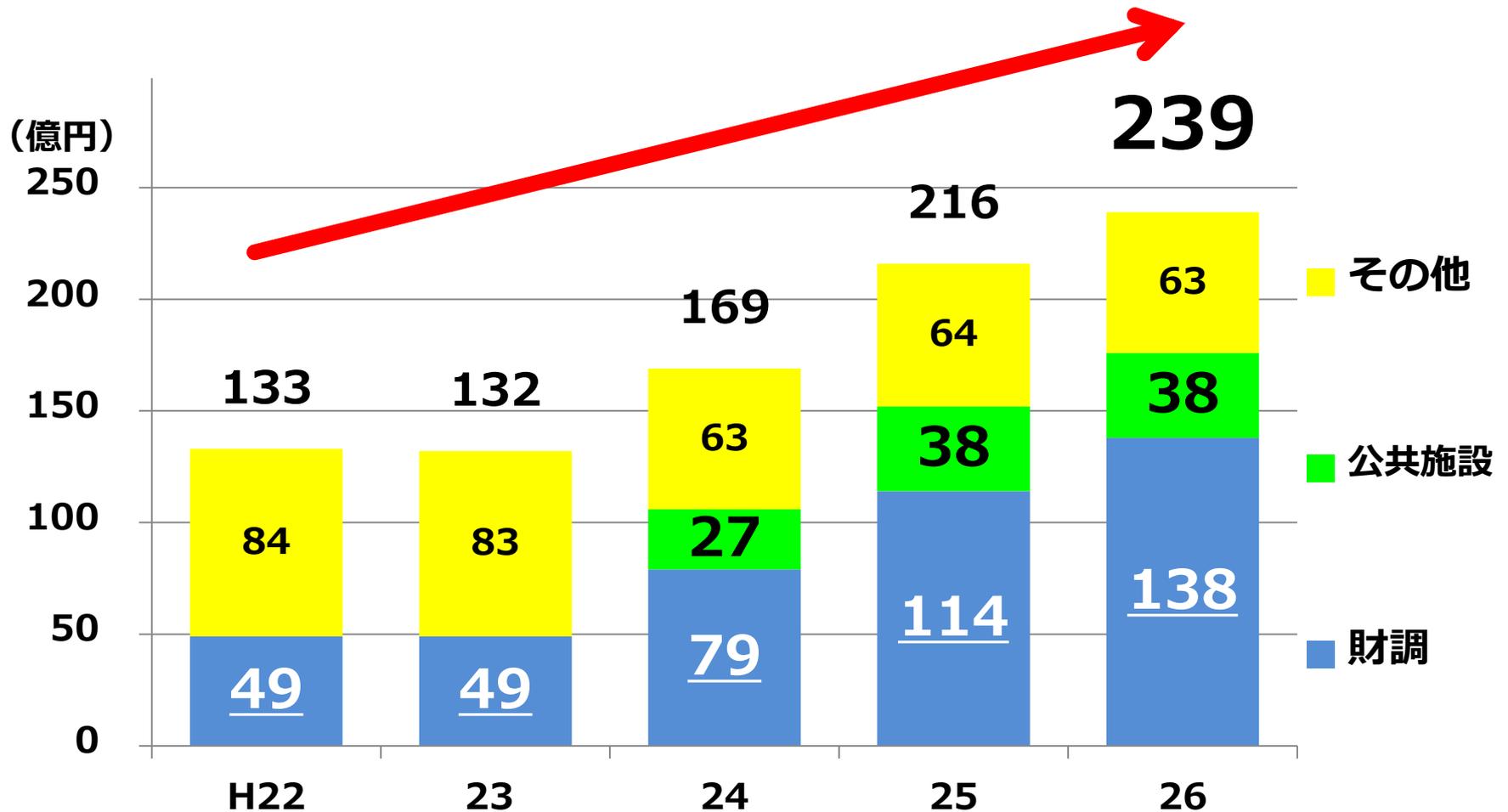
「・・・」は臨時財政対策債を満額発行した場合

債務残高は減少！ (臨時財政対策債の割合が増加)



債務残高の推移

財政基盤（基金）の充実！ （老朽化施設の保全費用を確保）



積立基金の推移（各年3月31日現在）

財政指標の目標値とH26決算値

経常収支比率	将来負担比率	財政基盤強化度
市税などの経常的な一般財源のうち、人件費、扶助費、公債費などの経常的な経費に充当した割合	市債や債務負担行為など将来にわたって負担すべき実質的な債務の標準財政規模に対する割合	財政調整基金の標準財政規模に対する割合
91%以下	50%以下	10%以上
※臨時財政対策債発行可能額による算定値		
90.6%	16.7%	18.0%

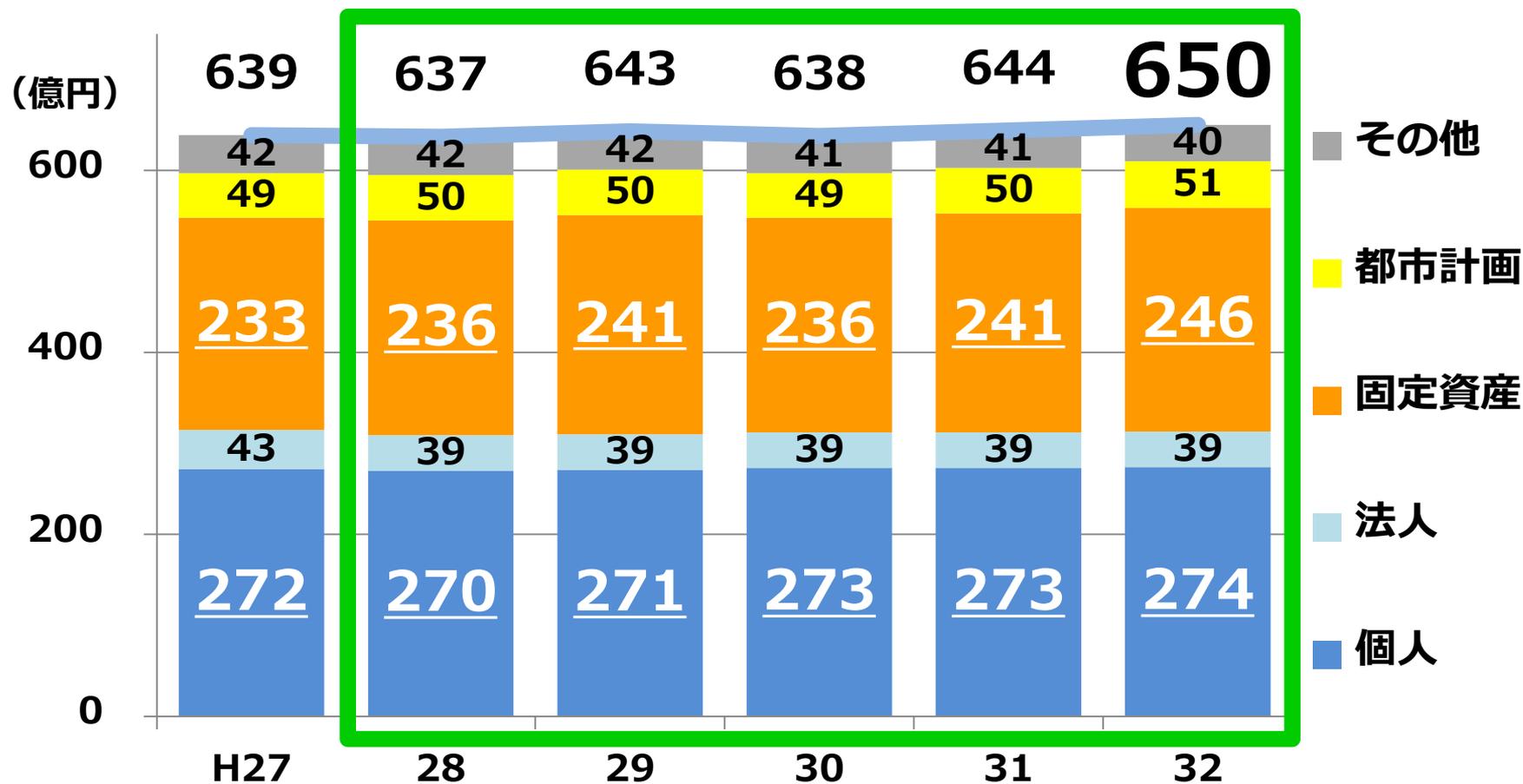
財政推計の前提条件

- 消費税率の引上げ（8⇒10%）の影響を反映（社会保障の充実見込む）
- 経済成長は未反映
- 借換を除く新規の借入れ90億円
- 財政調整基金15億円，繰越金5億円
- 社会保障費は実績で算出
- 投資経費は5年平均110億円

今後の見通し

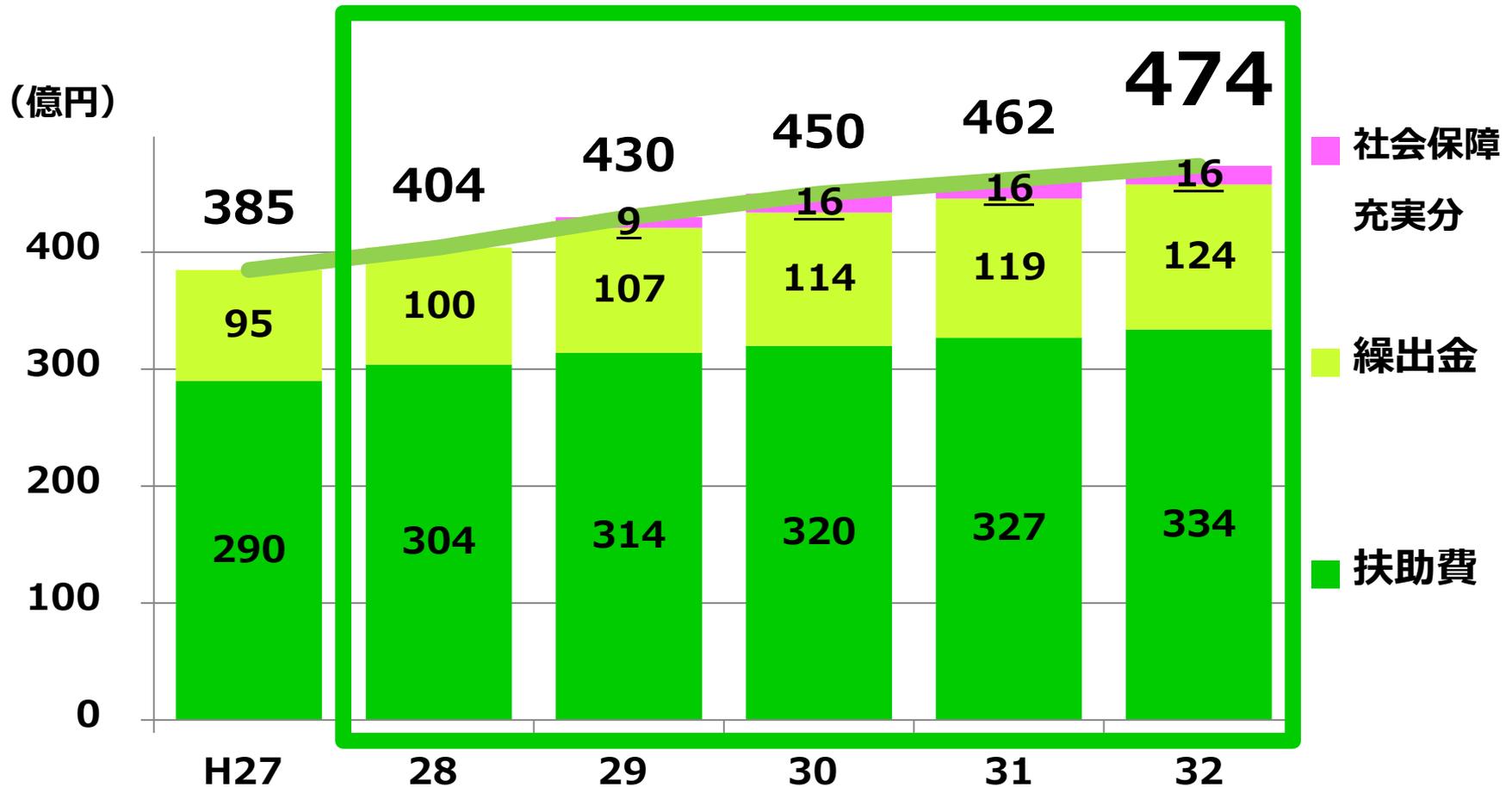
- **市税収入は横ばい・微増**
⇒人口増に伴う効果（固定資産税・市民税）
- **社会保障費は大幅増**
⇒高齢化の進展，消費税率引上げに伴う社会保障の充実（地方消費税交付金増分）
- **人件費，公債費は減少**
⇒職員の新陳代謝，退職者数の減少，新規借入れの抑制効果

市税収入は「横ばい・微増」！



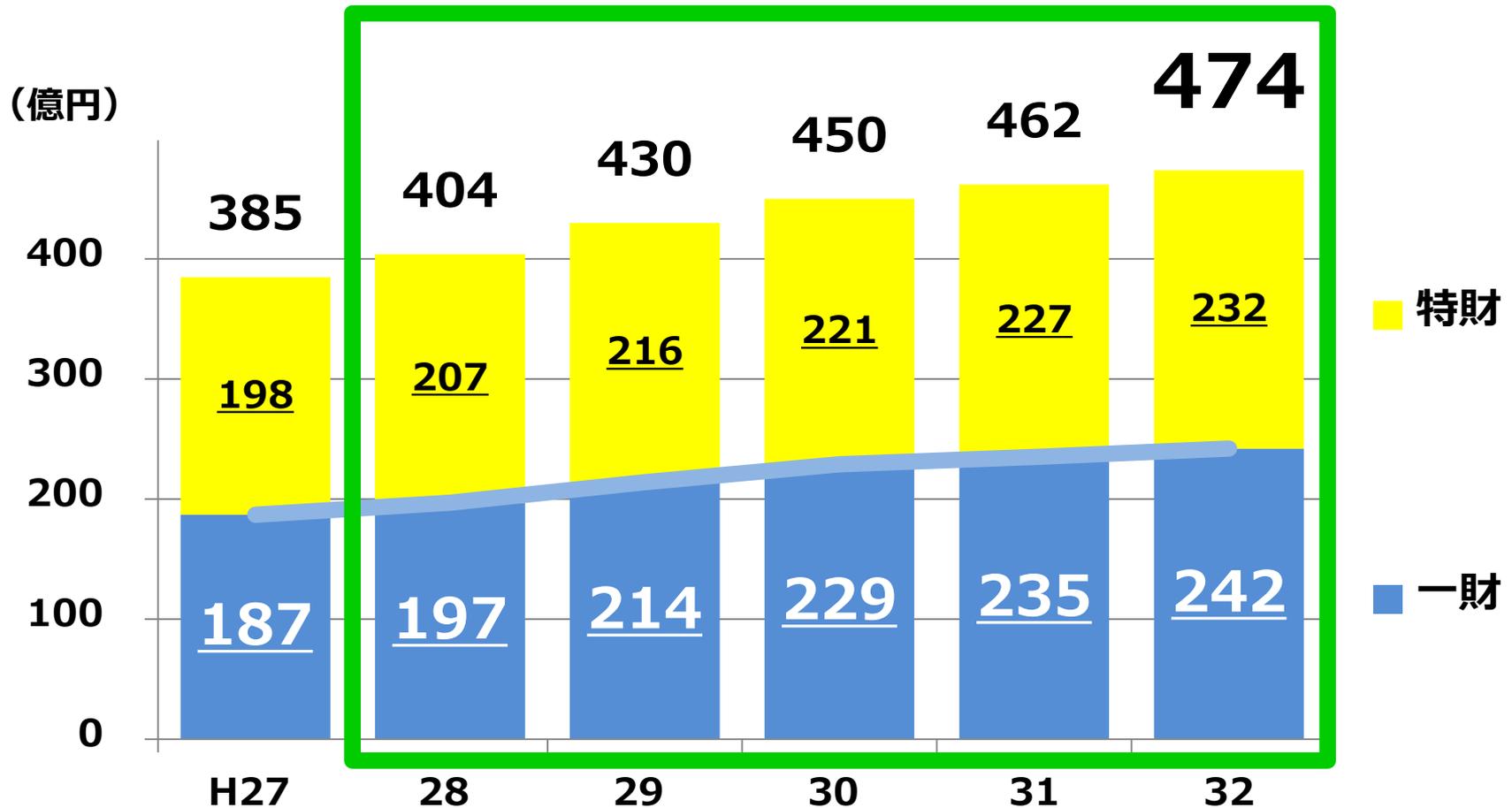
市税収入の見通し

社会保障費は5年で23%増！ (89億円増)



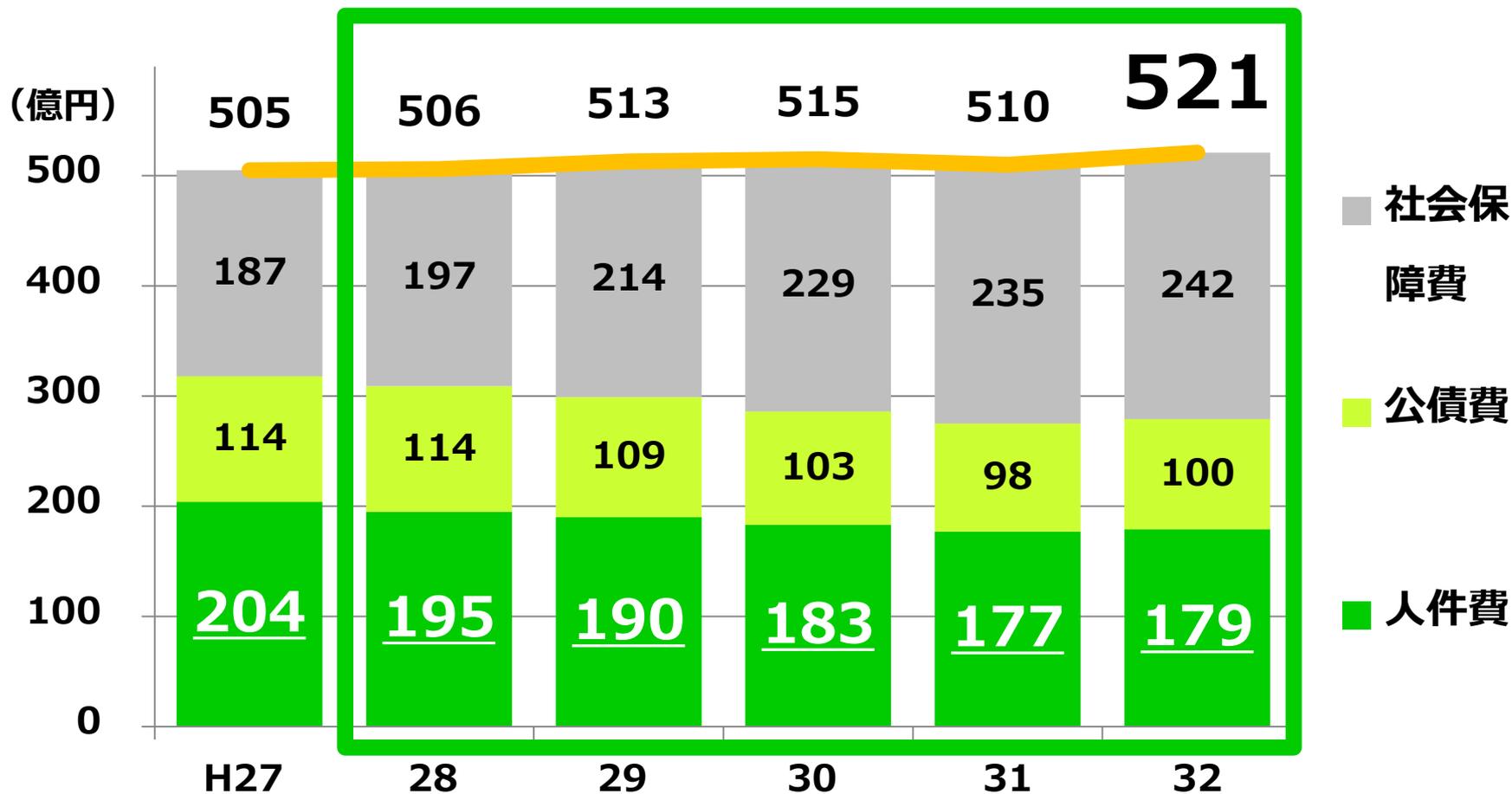
社会保障費 = 扶助費 + 医療・介護への繰出金等

社会保障費の一般財源負担は… (5年で55億円増, 29%増)



社会保障費 = 扶助費 + 医療・介護への繰出金等

義務的経費の一般財源負担は増加！

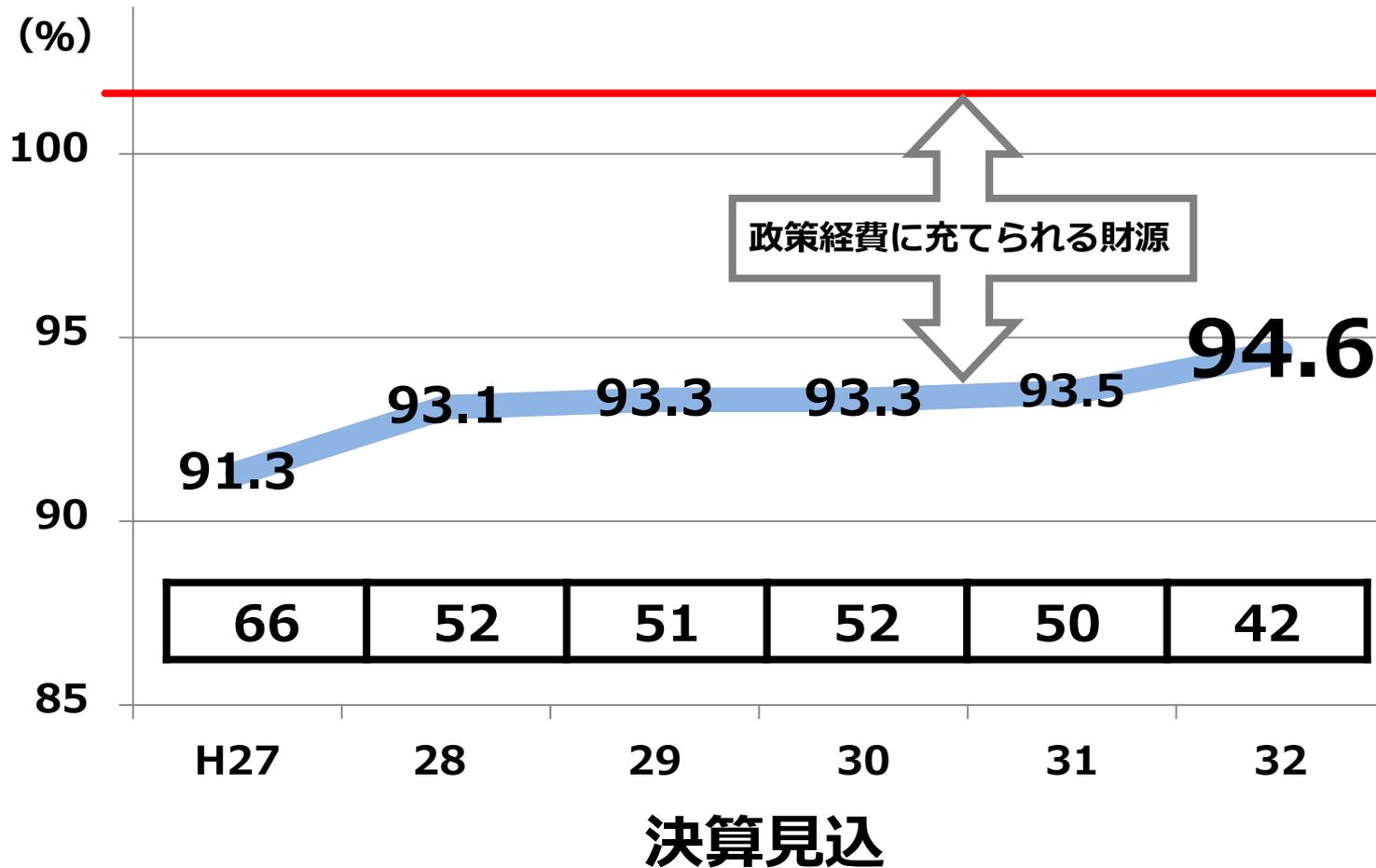


義務的経費 = 人件費 + 公債費 + 社会保障費

これまでどおりの財政運営を続けた 場合5年間で44億円の財源不足！

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
市税	639	637	643	638	644	650
市債	114	96	94	95	107	96
歳入①	1,222	1,172	1,190	1,197	1,219	1,218
人件費	234	220	215	207	201	203
公債費	126	120	113	108	115	106
社会保障	385	404	430	450	462	474
物件費	214	220	222	223	229	227
投資経費	147	110	110	110	110	110
歳出②	1,222	1,182	1,200	1,206	1,224	1,228
差引①-②	0	△10	△10	△9	△5	△10

経常収支比率は上昇・悪化！ (財政の硬直化が進行)



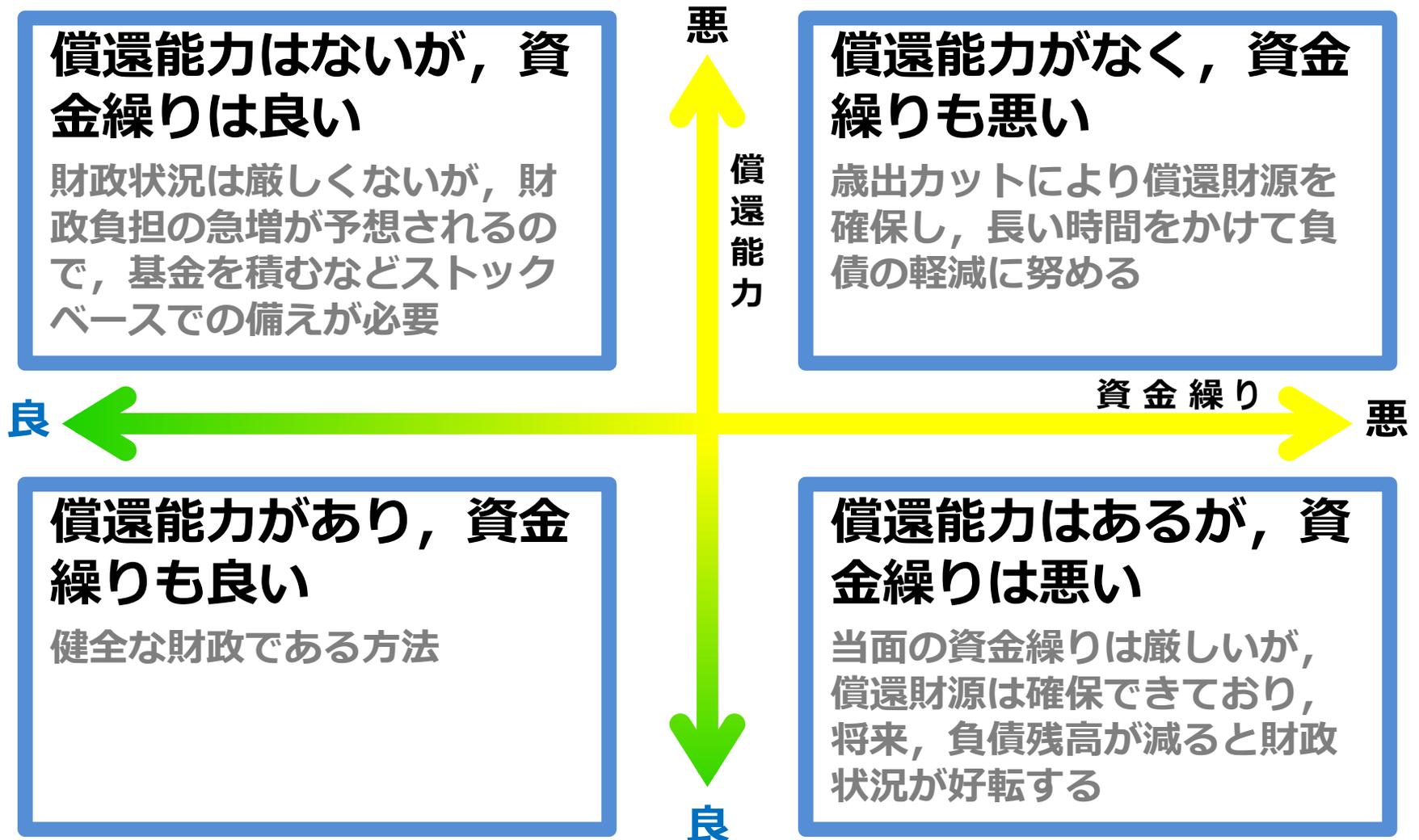
財政見通しに対する基本的理解

- **社会保障費が増加，経常収支比率は上昇傾向。財政の硬直化及び悪化が懸念**
⇒政策経費に活用できる一般財源が減少！
- **市債は財政負担を平準化する一方，大きく依存すると将来負担が増大**
- **財政の弾力化の観点から，基金の活用と確保が重要**

健全な財政運営のための指標 (指標設定の視点)

- 1年間の財政収支（資金繰り）と長期の財政収支（償還能力）の2つの視点
- 他の自治体と比較できる
- 償還能力指標は、国が貸し手として財務状況の把握に使用…検討
- 公会計の導入に伴いバランスシートを活用（今後の検討課題）

償還能力と資金繰り



健全な財政運営のための指標

- **経常収支比率（資金繰り）**

算式 経常経費充当一般財源【支出】÷経常一般財源【収入】

- **将来負担比率（償還能力）**

算式 将来負担額（地方債残高等）÷標準財政規模【収入】

※分母・分子は充当可能な財源を控除した後の額

- **債務償還可能年数（償還能力）…検討**

算式 実質債務÷行政経常収支

※実質債務＝地方債残高＋有利子負担相当額－積立金等

※他団体の把握が困難